

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成23年 学校教育だより

March **3** 第308号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



6年生社会科見学 — 議場体験 (憲法記念館にて) —

写真提供/鶴瀬小学校

海

諏訪小学校 六年

後藤航

海は、いろいろなものを通る。

船が通る。

魚が通る。

波も通る。

そして

いろいろなものを作る。

川を作る。

陸を作る。

生き物をつくる。

青色を作る。

なんでも作れる海は、

大工さんみたいだ。

「習得法のパターン化から
主体的な表現の工夫を目指して」

「え？もう終わり？」授業の終わりを告げた時に何気なく耳に入ってきた子どもものつぶやき。その子にとって、時間の流れを忘れるほど、何かしらの「楽しさ」や「充実感」があったからこそ、自然と口に出た言葉に違いありません。このような驚きを常に感じてもらえるような、すなわち楽しさや充実感を子ども自身が実感できるような授業を目指しています。

具体的には、四十五分間の

中に「歌う活動」「楽器を演奏する活動」「曲を聴く時間」を組み込み、子どもの興味を引き出しつつ、効果的に学習内容を習得できるように授業を構成することで、学習にテンポを与えながらいきいきとした表現を引き出していきます。今回はその一例として、これまで授業の中で取り組んできたリコーダー演奏における工夫を紹介します。

いきいき表現

指導者 ふじみ野小学校教諭 西澤 美香

「どんな曲だと思う？」初めて取り組む曲に対して、こんな質問をしています。タイトルから創造したり、音符の配列やついている記号などからイメージしてみたりと子ども達の発想は豊かです。答えは聴いてみて自分で判断します。「やっぱり。」「あれ？何か違った。」反応は様々ですが、それでいいのです。

①階名を書こう
譜読ができる子どもたちを中心に、教え合いながら階名を書いていきます。コミュニケーションを図りながら学び

特別支援教育

西中の特別支援教育

西中学校教諭 深谷直人

「一人一人の教育的ニーズに対応する教育」として、特別支援教育という言葉が使われるようになって十年となる。

本校でも、そうした位置づけで特別支援教育に取り組んでいる。本校では、年度初めに、各学級担任が「生徒チェックシート」を実施している。これは、学級の生徒一人一人

な生徒」という先入観を我々教員が持たないことである。そして、生徒の特質と抱える課題を理解し、よりよい成長のための有効な手立てを考え、協力して生徒を支援していくことが大切である。それが「教育」の根本であり、そのまま「特別支援教育」のねらいにつながる。今後継続し、よりよい取り組みとしていきたい。これからも、保護者、相談室等の諸機関と連携を図りながら、本校の特別支援教育の充実を目指していきたい。

合いをするのがねらいです。



「教えて。」「一緒にやろうぜ。」「わかる？」と歩み寄りたり声をかけ合ったりしながら取り組んでいます。

②リズム読みをしよう
階名でリズム読みをします。

教師が範唱しますが、自然に一緒にリズム読みをしてくれる子どもたちがいると意欲も高まるし、習得も早くなります。ほめられるとさらに声を出してくれます。ここでは階名の確認とリズムを知ることと同時にやるのがねらいです。

①みんなでやってみよう
一度、本来の速さで演奏してみます。わくわくしていたはずなのに吹いてみると「難しい！」「無理！」という展開もよく見る光景です。そのため、次はゆっくり運指を確認しながら吹いていきます。全体である程度までの演奏の仕方を整えていきます。

③階名唱をしよう
階名唱をすることで音程の高低が感じ取れるようになってきます。特に譜読が苦手な子どもには効果的で、低いドや高いドが出てきた時など、「これは高い？低い？」と問

いながら進めていくと、演奏時

②グループ練習で学び合おう

わかる授業 = 小学校の音楽科 =

テンポよく習得

教育随想

子どもが変わるとき

東中学校校長 浅見隆志



次は、グループに分かれて教え合ったり聴き合ったりしながらスムーズに演奏できるようにしていきます。



その中で、速度・リズム・音色・フレーズなどを手がかりに教師がアドバイスを加えると「こんなふうやってみよう。」「ここはこうした方がいいよ。」と、思いや意図を伝え合いながらグループ内

で協力し、深め合う練習をしていきます。



グループ活動では、その時の課題をクリアしようとこつこつと取り組む子ども、教えてあげたり励ましたりする子どもなど、子どもたち同士がかかわりながら学んでいく一面を見ることが出来ます。

朝掃除が続いた。

そのうち、出勤してくる先生方が生徒に「階段がきれいになるね。ありがとう。」「毎朝、がんばるね。」などと声をかけてくれるようになった。もういやいや行う掃除ではなくなっていた。いつしか生徒は、自分から進んで掃除をするようになった。

一ヶ月後、その生徒は私よりもていねいに階段の隅々まで掃除をするようになった。「認め・誉め・励ます」ことが生徒を育てることを実感した出来事である。

朝、出勤すると校舎と校庭を一周し、ゴミを拾い、来校者のために玄関と階段を掃く。それが教頭としての当時の私の日課であった。

ある日、担任の先生から申し出があった。「生徒が公共物を壊してしまったので、指導の一環として学校のためになることをさせたい。一ヶ月間、階段掃除のお手伝いをさせてもらえないか。」ということだった。私は快く引き受



最後は、発表をしてお互いに演奏を聴き合います。同じ曲でも表現の仕方が違うと雰囲気が変わり、それもまたお互いの新たな発見となります。



取り組みから思うこと

一つ一つ段階を経て学習活動を進めていくことは、子どもたちにとっても、見通しを持って課題に向かうことができるというよさがあります。

その中で、子どもたちは最終的に間違わずに演奏できることが「上手にできた」と思っていると感じました。しかし、私は音楽はそれだけでなく「こんなふう演奏したい」という思いを持ったたり、表現の工夫を追求できるように

っていったりすることも「音を楽しむ・味わう」ことにつながるかと考えています。そのため、今は様々な活動場面で「いい音色だったね。」「テンポが安定していたね。」「タンギングが上手。」など曲想につながる言葉を発して、子どもたちにもその意識が備わるようにと実践しているところですが。子どもたちが音を奏でる楽しさを感じ、それを気持ちよく表現できるように創意工夫を練り返し、充実した授業を目指したいと思えます。

指導・講評

ふじみ野小学校校長 竹内春夫

音楽の授業は、本来楽しいものですが、楽器の演奏や歌うことなど、子どもたちの持っている技能により楽しさが左右されてしまいます。この技能面を補い伸ばすには、子どもの意欲をどう引き出すかが重要であると思えます。

本教諭は、リコーダー学習の中で、子ども中心の活動を通し、意欲的に取り組ませることで、リコーダーの技能を伸ばし、本来の楽しい音楽学習を追求していることが、素晴らしいところと思えます。

見守る支援

富士見台中学校 すこやか支援員 蛭谷陽子

中学校ですこやか支援員という仕事を始めてから二年がたちました。最近では私の方が生徒たちからフレッシュユナエエネルギーをもらい支援されています。中学生ともなると思春期や反抗期といった誰しも通る道に入ります。勉強・部活・交友関係・家庭での悩み、学校でも家庭でも自分の存在が認められないと感じ、学校へ登校できなくなったり、登校できても授業へ参加できなくなったりと悩める子ども

たちのつらい日々が始まるころとあります。そこで大人があれこれ心配しても（心配するのは当然なのですが）子どもはそれなりに自分のことを冷静に見つめているようです。どんな傷でもやがて治るものだし、それを乗り越えれば本物の自信につながります。そうやって自分自身の意思をもって答えを見つけ成長する子どもたちの姿を見てきました。そこ知れぬパワーを感じました。またそこに至るまでには「友達」という強い見方が居たことも忘れてはいけません。



どんな支援よりもすばらしいことです。「この子たちは自分で何とかできるんだ」と信じ、そっと見守ることも支援の一つだと勉強させられました。最近TVドラマで学園ものが人気を集めているようですが、実際あんなにかっこいいものはありません。しかしある強面な男性教師が「この仕事は子どもが好きでなかったらできませんよ。」と言った一言が未だに私の心の中に残っています。生徒を想う気持ちにはドラマも現実も同じよう

水谷東小学校 5年

坂田 彩美

1月22日(土)「お餅つき&お正月遊び大会」が学校でありました。お正月遊びでは地域の方に教えてもらい、昔遊びやぐんぐんごまをやりました。こまを自分で作るのが楽しかったです。餅つきでは、つくときに水がとんできて冷たかったけれど、おもしろかったです。あずき、大根、いそべ、きなこの4種類のお餅

お餅つき & お正月遊び

をつくりました。自分たちでついたお餅は、とってもおいしかったです。私が好きだったのは、大根といそべでした。みんなで遊んで食べて、とっても楽しい一日でした。

地域のみなさん、ありがとうございます。



資源回収

本郷中学校保護者 山之内 清子

資源回収に参加したことがなかった私が、「保健厚生委員長」になった一年前。

バスケットボール部の息子が、軍手を持ち、日曜日、学校での活動に参加。「ジュースもらった！」とちよつと誇らしげに言っていたことを思い出した。

前年度までの資料や、使いこなせないパソコンと格闘し、とにかく準備をする。不安一

杯だが一緒に活動した委員さんたちに恵まれて、何とか一回目の資源回収を迎えた。

六月の蒸し暑い日。先生・生徒・保護者二百五十人もの参加。資源を提供していただく家庭。毎年たくさんの方のダンボールなど出していたり、協力店の存在。そんな大切なことも当日になって実感し、理解できた。さらに、自宅のトラックで運転者や助手となり、



家庭教育

会話は大切

関沢小学校保護者 渋谷 美貴



地域と学校を何度も往復する。全くのボランティアに汗を流してくれる頼もしいお父さんたち。それが本中の「おやじの会」の面々である。

この大きな力がなかったら、本中の資源回収は成り立たないだろう。しかも、その子どもたちはとくに卒業している保護者OBに当たるのだ。

こんな手作りの資源回収が、もう十年以上続いている。この多くの縁の下の力に支えられていることを子どもたちも私たち現役の保護者も意外と知らないことは、残念でなら

ない。委員を引き受けたからわかったこと、これからも忘れないようにしたい。来年度の委員さんたちに、「感謝の気持ち」を引き継ぎたいと思う。



い学校生活や、悩みを打ちあけてくれるのは、とてもありがたいことだと思えます。

私は今でも悩みごとがある。と遠くに住む母の声が聞きたくなり。母の「大丈夫だよー」その言葉ひとつで力が湧き、癒される自分がいます。

これから息子たちは、自分の将来を模索し、進路を迷いながら、大人になってゆくことでしょう。そんなとき、息子たちが、私の声を聞いただけで元気になり安らいだ気持ちになれるよう、ポジティブな、肝っ玉かあちゃんであり続けたいです。

みんなの居場所作りを目指して

関沢キッズクラブコーディネーター 栗原 久美

午前九時半、真つ青に晴れ上がった十一月の土曜日、関沢小学校体育館寄りの校庭でエプロン姿の子どもたちは、淑徳大学のスクールボランティアの先生に紙芝居を読んでもらい、もちつき体験教室の説明が始まるのを待っています。

毎年一番のにぎわいをみせるもちつき体験教室。もち米の蒸し上がりから、おもちの味付けまでの全行程を大人たちの手伝いのもと、自分たちで行う楽しさと出来上がったおもちのおいしさは格別のようです。それは、子どもたちだけではなく、携わった大人も同じです。特に子どもたちの満足気な顔を見ることの喜びは、次の活動への楽しさにつながっています。

「子どもの居場所づくり」をキヤッチフレーズに行ってきた関沢キッズクラブも、まる六年になりました。毎月配布されるチラシを見て、子どもたちは好きなプログラムに参加してきます。キッズクラブ開始当初から行っているイン

ディアカやグラウンドゴルフ、ラケットテニス、生け花教室には、常連の子もいて少しずつ上達していくのを、子どもたちと一緒にスタッフも喜んでいきます。また、指導者の方々も子どもたちと顔なじみになり、活動休憩中のスキニップはもちろんのこと道端で会って挨拶をかわしたりするようにもなりました。このような関係を長く広く続けられるように子どもたちに携わるいろいろな団体、いろいろな方々とのきずなを深め、さらに協力し活動していきたいと思えます。みんなの「居場所づくり」を目指して。



子どもたちは学校の先生だけでなく、校外の様々な方からいろいろなことを学んでいます。地域の方に学校に来ていただいたり、子どもたちが地域に出かけたりして、地域の方が培ってきた知識や技術などを教えていただいています。

郷土のお話をしてくれる方の読み聞かせをしてくれる方、点字や手話を教えてくれる方等等、多くの方がボランティアとして学校を支援してくださっています。

また、中学生は「はつらつ社会体験活動」で、様々な職場の方から「仕事」や「世の中」を学んでいます。

多くの方に協力をいただき、様々な場面で子どもたちが新しい刺激や感動を受け、豊かな感性を育んでいる様子をご覧ください。

学校 TODAY

特集

いろいろな人に学ぶ

東中



ウィンタースポーツ宿泊学習にて

長野県菅高原にて1年生はスキー、スノーボードの体験学習を行いました。ほとんどが初心者ですがインストラクターの先生方の丁寧な御指導により、二日目はみんなリフトに乗り、ゲレンデを滑り降りてきました。

南畑小



一食分の食事について考えよう

6年生の家庭科の学習では、特別支援学校の栄養教諭、島袋先生にご協力頂き、一食分の献立づくりと調理実習を行いました。品数や栄養バランス、色どりなどを教わり、思い思いの一食をつくることができました。



ふれあい講演会にて

日本パラリンピック選手兼監督の佐藤幸弘氏に來校していただき、卓球の実演をしながら「ハンディをチャンスに変える生き方」について御講演をしていただきました。



米づくり名人に学ぶ

5年生のお米づくりは、南畑小伝統の学習活動です。今年も、地域の小山名人にお願いし、「くろっけ」「田植え」「稲刈り」「おにぎりづくり」「わら細工」と『食』について体験を通して学ぶことができました。

|| 市教育相談研究室より ||

『教育相談Q&A』

Q 小三の息子ですが、無駄遣いが多く、金銭感覚が身についていないので小遣い制にしましたが、すぐに足りなくなってしまうようです。小遣いを増やしたり、元通りにするしかないのでしょうか・・・。

A 今の世の中、お金なしに生活することができません。したがって今後、社会生活を送っていく子どもたちも実際にお金の使い方を学び、金銭感覚を身につけていく必要があります。また、最近の若い人の中には自己破産する人が増えていくといわれています。だからこそ、自分の収入に合わせたお金の使い方を子どもものうちから実際に練習して金銭感覚を身につけることが必要といえるでしょう。

一、小遣いについて

子どもにお金の使い方を実習させるためには、お母様がすでに試みられたように、毎月決まった金額の小遣いを渡し、その範囲内でやりくりさせる方法が一般的でしょう。最初のうちは、無駄に使ってしまったら、無計画に使うこともあるでしょう。しかし、小遣いは子どもにお

水谷小



バランスのよい食事を考えてみましょう

ゲストティーチャーをお迎えしてバランスのよい食事についての授業を学年で実施しました。なぜバランスのよい食事がいいのか、どんな食品を食べるといいのか、自分の献立と関係づけながら学習しました。

国際交流活動 総合的な学習の時間を通して

3人の留学生をお招きし、それぞれの国について調べたり、実際にお話を聞いたりして、理解を深めました。また、それぞれの国の遊びを体験し、日本との類似点や相違点を体感することができました。

鶴瀬小



赤ちゃんのこと 教えて！

子ども動物自然公園副園長、内海さんが、多数の写真を手にお話してくれました。目を輝かせて聴き入る子どもたち。最後には、ウサギを抱っこさせてもらい、歓声が教室中に響きわたりました。

日本の音色にふれて〈邦楽体験、鑑賞〉

2月24日、竹親会の方々に、尺八、琴の生演奏を聴かせていただきました。美しい音色に心を震わせ、熱心に琴の弦をはじいたり、尺八の息使いに挑戦したりと、日本の音色を身体全体で味わった体験となりました。

西中



名物「PTAバザー」

毎年11月に体育館でバザーが行われます。去年は地域や保護者の方々から届く野菜や日用品がなかなか集まらず、保護者のバザー委員さんたちが心配されていました。しかし、当日は…品数も豊富で大盛況でした。

元気な声で「おはよう！」

朝から元気に挨拶すると気持ち良い一日が始まりますね。西中では、保護者の方々、生徒たち、教師が一つになり、毎朝「おはよう」「おはようございます」と声をかけあう『あいさつ運動』を行っています。

金の使い方方を練習させるためのものです。失敗しながらも子どもなりに学習し、徐々に望ましい金銭感覚を身につけていきます。ですから、親としては、失敗が多いほど学ぶことが多いという気持ちで見守ってほしいと思います。

二、今回の場合の対応方法

今回のケースは小遣い制にしたばかりですので、足りなくなつたのは仕方がないと思われまふ。また、小遣い制にした時の親子での話し合いが充分ではなかつたのが原因とも考えられます。最初のうちは今月は何にどのようを使うのかを話し合っておくとよいと思います。また、本人が使い方に困つた時は、親に相談するよう決めておくことも必要です。その際の注意点としては、一度お子様と相談して決めたお金の使い方に対して、すぐに口出しせずに見守ること、お子様が足りないと訴えてきても安易に追加や増額にに応じてはならないことです。

そのような、一貫した対応を親がとることで、無駄遣いだけでなく、その他の身勝手な行動も減ってくるものと思われまふ。



教育委員会だより

卒業おめでとうございます

今春、1,934名のみなさんが、市内の小・中・特別支援学校を卒業します。

保護者のみなさまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことと思います。

卒業生のみなさんは、通いなれた学校や一緒に過ごした仲間たちとの別れにさびしさを感じながらも、これから始まる新しい生活に期待や夢をふくらませているのではないのでしょうか。新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、心もからだも大きく成長することを願っています。

在校生のみなさん、4月から1学年ずつ進級します。この1年間を振り返り、新しい目標に向かって、たくましく元気に学校生活を送りましょう。

◎平成23年度富士見市立小・中・特別支援学校入学式
期日：4月8日(金) ※2月17日現在

学校名	開式時刻	入学予定者数
鶴瀬小学校	午前10時30分	76名
水谷小学校	午前10時30分	64名
南畑小学校	午前10時20分	39名
関沢小学校	午前11時00分	95名
勝瀬小学校	午前10時40分	99名
水谷東小学校	午後1時30分	62名
諏訪小学校	午前10時50分	106名
みずほ台小学校	午前11時00分	101名
針ヶ谷小学校	午前10時45分	59名
ふじみ野小学校	午前10時45分	132名
つるせ台小学校	午前10時40分	98名
富士見特別支援学校	午前10時20分	12名
富士見台中学校	午前10時00分	194名
本郷中学校	午前10時00分	151名
東中学校	午前10時15分	104名
西中学校	午前9時50分	181名
勝瀬中学校	午後1時30分	252名
水谷中学校	午前10時00分	60名

《お詫びと訂正》

12月号(307号)の「生きる力をはぐくむ」中、「いつでも今を楽しむところ」を執筆いただいた、針ヶ谷小学校学校応援団コーディネーター 杉山 由佳 さんが、違う方の名前になっていましたので、ここに訂正し、お詫びいたします。

平成23年度から、開校記念日は授業日になります。



朝の風景

みずほ台小学校教諭

鳥山 裕貴



朝、始業前に教室に行く子どもたちは一人もいない。黒板には「今日の朝レク。ドッジ。男子VS女子。」とだけ書いてある。これがいつも

の六年三組だ。五年生の時の「朝、ランドセルを置いたら外へ」という約束をそのまま続けている。足をねんざして体育を見学した子どもも、腕を骨折して三角巾でつって

る子どもも外に出ている。しかし、朝の忙しい時には外に出るのに、業間の休み時間は三分の一くらいの子どもが教室に残っていることもある。なぜ朝だけなのだろうか？

「今日の朝レク。短なわ」と書かれていることは教室に行かなくてもわかる。六年三組の仲間がすでに校庭で二重跳び競争を始めているからだ。

このクラスの担任になって不思議に思った。しばらくは、「出なければいけないから」というだけで外に出るのは少し違うなと考えていた。「嫌々外に出てもしょうがないのでは？」と子どもたちに話したこともあった。それでも朝レクは続く。

半年ほど過ぎて、考えが変わった。子どもたちの中で朝レクは、「義務」ではなく「習慣」になっていったようだ。そして六年生となった今年度、行事の計画、委員会、縦割り活動など休み時間も働き続けてきた子どもたち。そんな仲間がクラス全員そろって遊べる時間は「朝だったのである」。

朝レクを一年間続けたこと、これは六年三組が自分たちで見つけた宝物の一つだ。「今日の朝レク。短なわ」と書かれていることは教室に行かなくてもわかる。六年三組の仲間がすでに校庭で二重跳び競争を始めているからだ。

編集日記

前号の創刊三十周年記念特集はいかがだったでしょうか。皆様方の貴重なご意見を拝聴し、今まで以上に襟を正して発行業務に取り組みなければならぬと思われました。これからも皆様の期待にこたえられるように努力したいと考えております。

さて年度末が近づくと、こんな話を思い出します。『一年一インチ』これは英国海軍の話で、乗組員がさまざまなものを軍艦の中に持ち込んでしまい、その重さで年に一インチずつ喫水線が下がってしまうという意味なのです。これが何を意味するかわかりませんが、軍艦の重さが重くなることは、軍艦の機動性が損なわれ、スピードが落ちることを意味します。すなわち競争でいえば負けを意味します。乗組員の立場でいえば死を意味します。つまり一年一インチという言葉は不要なもの捨てなさいというたとえ話です。さて、読者の皆様、いろいろなデータ(文書・電子)をため込んでいませんか。来るべき新年度に向け身軽になつて臨みましょう。(保坂)